

令和6年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

小学校 生活科

改善の重点

- ① 気付いたことを基に考えることができるようにするために、見付ける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動を行うようにすること。
- ② 単元における評価の方法を工夫し、授業改善に生かすようにすること。

1 設定理由

生活科の目標の冒頭に「具体的な活動や体験を通して」とある。これは、子どもが体全体で身近な環境に直接働きかける創造的な行為が行われることを重視していることを示している。一人一人の子どもの思いや願いを実現していく一連の学習活動の中で、直接対象と関わる体験活動と表現活動とが豊かに行き来する相互作用を充実させることが大切である。

また、気付いたことを基に考えることで、一つ一つの気付きが関連付けられた気付きへと質的に高まる。そのためには、見付ける、比べる、例える、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動を行うことが重要である。右は、気付きの質が高まったことを示している。児童の気付きは教師が行う単元構成や学習環境の設定、学習指導や観点別の学習状況についての評価によって高まることから、これまで以上に意図的・計画的・組織的な授業づくりが求められる。

「気付きの質が高まる」とは

- 無自覚だった気付きが自覚される。
(気付きを自覚する)
- 個別の気付きが関連付けられる。
(関連付ける)
- 対象のみならず、自分自身についての気付きが生まれる。
(視点を変えて捉える)

②では、評価の方法の工夫を挙げている。生活科では、特定の知識や技能を取り出して指導するのではなく、児童が具体的な活動や体験を通す中で学んでいくことから、評価は、結果よりも活動や体験そのもの、すなわち結果に至るまでの過程を重視して行われる。そのため、評価については、例えば、児童がそれぞれに遊びを工夫したり、遊びに使う物を工夫して作ったりしている中での行動や発言を見取るというように、教師が活動している児童の行動や発言等を見取り、分析する方法で計画されることが多い。しかし、活動中の児童それぞれの状況を把握するためには、その見取り方に工夫が必要である。

生活科の授業を通して、確実に資質・能力を育成するために、児童それぞれの状況を把握できる評価の方法、児童の行動や発言等の見取り方を工夫することが大切である。

2 研究を進めるに当たって

(1) 実践に当たっては、以下の点に留意すること。

- ① 気付きの質を高めるため、試行錯誤や繰り返す場の設定、伝え合い交流する場の工夫、振り返り表現する機会の在り方、学びを豊かにする学習指導と評価を重視すること。
- ② 児童の考え等の見取りの手立てについて、工夫して評価を行うこと。

(2) 参考とすべき資料

- 『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料【小学校生活】

国立教育政策研究所、令和2年3月